

なぜ、司法書士と共に「小学校」での法教育に取り組もうと考えたのか

西宮市立小学校教諭 松本 榮次

1. 福岡県司法書士会との出会い

はじめての司法書士法教育ネットワークに参加した。参加した理由は、法教育が行われている事を知り、法教育の実践をするために本等の情報を調べていたからである。そこで、福岡県司法書士会の方や久保山力也氏に出会った。お互い小学校での実践をめぐり、夜の会で意気投合し、いつか小学校で協力して実践しようという約束して帰った。7月になり、メールで連絡をとるうちに、3学期に実践しようということになった。3学期には紙芝居ができあがるだろうということ。こちらも3学期までには構想をねることができる、学年での共通理解ができると考えた。

2. 3学期の総合的な学習の時間

学年で共通理解をはかり、全13時間の法教育の視点に立った総合的な学習の時間を設定した。授業のねらい・単元の展開は以下である。

テーマ「法について考えよう」

- (1) 無人島ゲーム (2時間) ルールの必要性について感じる
- (2) 「もしも・・・がなかったら」 (2時間) (日常生活におけるルールの重要性に気付く)
- (3) 「法は何のためにあるのか」 (2時間) (司法書士による特別授業) (法は何のためにあるのか考える)・・・福岡県司法書士会関連の方4名来校6時間授業
- (4) 大阪法務局見学 (社会見学) (3時間) (法に関する仕事を実際に見学する)
- (5) 運動場の使い方について考えよう (4時間) (自分たちにとって身近な生活の中から課題について考える)

***法教育を行うにあたって、実際に法にかんする専門家にふれることが児童にとって大きな経験になると考えた。・・・本物との出会い

児童だけでなく、教師も本物との出会いが大事

3. その後の取り組み

2012年3月24日 小学2年生に紙芝居教材「解釈の力」実施

2013年6月K大学 大学院生に紙芝居教材「解釈の力」実施 (数名)

2013年同時期に 小学校教員の学習会で紙芝居教材「解釈の力」実施 (数名)

2013年9月 法と教育学会で、紙芝居教材「解釈の力」の発達段階による違いについて、福岡県司法書士会の金源先生と一緒にポスター発表を行う。

2015年3月 大阪司法書士会の親子法律教室を見学

2015年4月 西宮市立小学校教職員を対象に、紙芝居教材「解釈の力」

4. 紙芝居教材「解釈の力」の小学校への影響

教材のパッケージ化（CD 紙芝居 指導案集）

誰でも、授業が可能となる。・・・・・・親子法律教室への影響？

授業を受けた教師への影響・・・自分もぜひやってみよう

司法書士だけでなく、教師が法教育をやってみたいと考える内容
テレビの法解釈・法適用の内容ではない。

今後は、学校の教育に、法教育が必要と教師が考えれば、自主的に教師も参加すると思われる。そのためには、教師の研修会等に採用されることが重要。

「解釈の力」はそのモデルになりうると思われる。

5. 今後は、新たな教材の開発が重要

紙芝居教材の続き

ぜひ、教材のパッケージ化をすすめてほしい・・・

参考資料・参考ホームページ

「法教育の視点に立った総合的な学習の時間の研究」松本榮次 2012年2月
武庫川臨床教育学会『武庫川臨床教育学論集』

平成23年度法務省法教育懸賞論文表彰式

http://www.moj.go.jp/housei/shihouhousei/housei01_00098.html

法教育推進協議会（第28回）議事概要

http://www.moj.go.jp/housei/shihouhousei/houkyo_kyougikai_gaiyou28.html

法教育推進協議会 第28回会議 議事録

<http://www.moj.go.jp/content/000097723.pdf>

「法教育の意義—解釈の力を通して—」 松本榮次 2014年春号
福岡県司法書士会会報 pp.10 -11